



第2580地区 東京豊島東ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

創立/1986年2月19日 (会長)稲川 一 (幹事)月井 雅夫
 例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン TEL 03-3980-1111
 事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-29-14-101 TEL 03-3985-7577 FAX 03-3590-6644
 HP <http://www.toshimah-rc.jp> E-mail info@toshimah-rc.jp

第 1250 回例会 2012 年 7 月 18 日

本日のプログラム

卓話 美術品評価の仕組みについて

(株)美研鑑定

代表取締役社長 山口秀起氏

紹介者 有我信行会員

次回のプログラム

卓話 ピロリ菌について

平山胃腸クリニック

院長 平山洋二氏

紹介者 時友雅行会員

先週の例会報告 2012 年 7 月 11 日

臨時理事会報告

出席者:

会長、副会長、幹事、SSA、会計、社会奉仕委員長、
国際奉仕委員長、新世代奉仕委員長

平成24年6月30日をもって安齋会員の退会を承認

会長報告

日韓親善会議参加へのお願いが再度きております。
詳細についてはチラシを各テーブルに回覧していま
すのでご覧ください。

尚、参加登録をご希望の方は今週金曜日までに事
務局にご連絡下さい。

幹事報告

近隣クラブ例会臨時変更のお知らせ一覧表をホワイ
トボードの所に置いておりますのでメイクアップの際
にご活用下さい。

■ゲスト

(株)エフ・エム・エス 代表取締役社長
吉澤 審一様

■ビジター

東京池袋 RC 中田 和男さん

■出席報告

会 員	出席参加 会員数	出席数	欠席数	出席率	6月27日分 修正出席率
34名	33名	27名	6名	81.81%	85.71%

ニコニコBOX

吉澤審一様/卓話をさせていただきます。

櫛田会員/7月の司会を担当しておりますが緊張し
ています。先輩の皆様のご指導何卒よろしくお
願い申し上げます。

第 1249 回例会 卓話



「日本のコンピューター導入の歴史と 現在の IT の課題について」(講談風卓話)

(株)エフ・エム・エス

代表取締役社長 吉澤 審一様

〈エピソード1〉

—民主主義の基盤を支える必要性からパンチカード・システムは生れた—

コンピューターの前身であるとも言える統計機械、
パンチカード・システム(PCS)はそもそも民主主義
国家の基本をなす選挙制度から生れた。

アメリカの大統領選挙は間接選挙である。選挙人
は人口に比例して選出されるが、人数はその選挙
に最も近い時期に行われた国勢調査の結果によって
定められる。

中間調査を含み5年ごとに行っていた国勢調査は、
人力に頼らざるをえず、1880年当時、結果算出には
7年もの歳月がかかっていた。大統領選挙は4年に一
回である。次の選挙を行うにしても、最も新しい、正

〈裏面へつづく〉

〈前面より続く〉

しい統計数字があがらなかったら、本来、公正公平でなければならない選挙もおかしくなる。もっと効率よく、正確に人口センサスを行う手法がないものか、民主主義国家の国是にも関わる問題だけに、この課題が国勢院の最大の使命ともなっていた。

こうした背景から生れたのが、統計機械だった。ジャガード織機を改造したホレリス式（後のIBM）、それを改造したパワーズ式（後のユニヴァック）。共にカードに穿孔して読み取る方式である。これにより統計結果は3年で出るようになった。いずれにせよ、コンピューターの原点ともなったPCS統計機械組織は元来、このように民主主義の基盤を支える必要性から生れたものだった。

〈エピソード2〉

——日本に初めてPCSが輸入された日は——

今から遡ること約90年、1923年（大正12年）8月31日に、PCS統計機械組織が横浜についた。あの関東大震災の前日が、わが国の事務の機械化の記念すべき日なのである。

このPCSは運良くその日の内に陸揚げされなかった為災害を免れた。

震災後、神戸港に保管されていた、機械はその年の12月に東海道線の客車で、毛布に包まれ東京に着いた。機械は国勢院（現・統計局）、鉄道省（運輸貨物統計所、現JR）、横浜税関（貨物統計用）向けに輸入された。

〈エピソード3〉

大正8年（1919年）国勢院は統計機械の調査を三井物産に依頼した。担当部門は機械課、課長は石田礼助、後の国鉄総裁であった。同時期に入社したての吉澤審三郎がその任にあたることとなった。当時の三井の海外の情報網を使い統計機械の資料を集めた。その結果、当時の国勢院、鉄道省、横浜税関がパワーズ式（後のユニヴァック）の導入を決めた。この実績をもって、三井物産はパワーズ式PCSの代理店契約を結ぶに至ったのである。

〈エピソード4〉

——戦後の事務機械化はPCSから電子計算機へ、それは兜町から始まった——

昭和20年8月15日、終戦。

戦前に輸入されていたPCSは戦火でほとんどが失われてしまった。

本格的な輸入が再開されたのは、昭和26年、サンフランシスコ講和条約が調印された年であった。

厚生省統計調査部を始め、労働省統計調査局、大蔵省関税局、文部省調査局、専売公社、国鉄調査局等が新しいPCSを導入し、その後民間企業にも普及していった。

昭和30年2月、兜町にUNIVAC 120（真空管方式）がお目見えした。日本初のコンピューターは東京証券取引所と野村證券に納入された。証券市場の民主化

により、株のブームがおこり、朝鮮戦争の特需で一層の拍車がかかった。昭和28年には、2300万株の出来高を記録、この売買取引のお陰で、精算事務に破綻をきたしていた。

昭和20年にエッカートとモークリーがペンシルバニア大学で研究・開発を進めていた電子計算機が始動した。ENIACの誕生である。その後この開発は進められ、EDVAC、BINACと進化し、昭和25年、世界初のコンピューターUNIVAC 1が誕生した。

その成功から数年でUNIVAC 120が開発され、日本に導入され、わが国の経営のコンピューターリゼーション運動に大きな刺激と影響を与えた。

これが、その後、今に至る、コンピューター社会、高度情報化社会、IT社会、の原点である。

東京証券取引所に設置されたUNIVAC 120を見学した、ノーベル賞受賞者湯川英樹博士は「場立ちは機械化できる」と、すでにその時点で約40年後の将来を見通された。

「証券取引所の場立ち」の完全機械化は20世紀最後の段階で完成された。

ITは90年間何の進歩をしたのか、大きさ、速度、集積度、容量、周辺システム、高速回線……

パンチカード式統計機械が生まれて90年、真空管式リレー電子計算機が登場して60余年、この間コンピューターは一体何が進歩したのだろうか？

コンピューターがデジタルの申し子として登場して以来今に至るまで、人間の感覚・感性であるアナログの世界に如何に近づくかの努力の繰り返しであった。（いまだにコンピューターは真円を描けない。）

ハードウェアの進歩はたったこれだけと言う事もできる、でもたったこれだけの進歩でも、例えば演算速度の飛躍的進歩は、遺伝子工学の分野でヒトの遺伝子を分析するにあたり、何年もかかる計算を、スーパーコンピューターは今や数分で可能にした。

これは、遺伝子からくる病気の治療にあたり遺伝子組替え治療を現実のものにした。

これだけをとっても、コンピューターの高速化は人類に貢献をしている。

だから世界第二位に甘んじてはいけない。

「コンピューターソフト無ければ只の箱、…ソフトあっても只の箱、大事なのはデータ！」

「データマイニングによりプラチナ・データを探出したい」

安い大容量記憶装置による「ビッグ・データ」の登場。整理して何時でも取り出し、加工できる様にしておくと、データベースは知識化する……無形知識財産。ITなんて単なる道具……データが大事。

もっと大事な事！

技術と感性のバランスのとれた教育が大事。

子供はアナログでリアルの世界で遊び、学び、その上でデジタルを学ぶべき。